

平成19年度事業計画概要

(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

1. 今年度は5ヶ年計画の最終年度となる。過去4年間の実績を踏まえ、必要に応じ計画実現に向けて遂行体制の検討と見直しを行う。

以下に再度5ヶ年計画の重点項目を記す。

①事業の継続的・安定的運営を推進するための事業基盤（インフラ）の整備

- (a) 連盟組織の改編
- (b) 重要強化分野のインフラ整備

②ブリッジの今後の発展のための普及活動の活性化

- (a) 若年層をターゲットとする普及活動
- (b) 地方への普及の活性化

2. 以下、重点項目を中心として今年度事業計画の概要を述べる。詳細は次項以下の事業別の計画を参照願いたい。

1) 連盟組織の改編

九州支部及び福岡ブリッジプラザについては専任要員を常駐させ、普及活動、講習会の開催、競技会の開催、庶務、会計業務などを担当させる。

事務局については、中谷国際交流事業部長の退職に伴い要員が1名減となったが、当面人員補充は行わず、担当業務の柔軟な見直しを行うことにより現有要員で対応することとする。

2) 普及事業部

社会的認知度・信用度向上のための広報活動

マインドスポーツとしてのブリッジ、若者の健全なる成長に寄与するブリッジ、年代を超えて楽しめるブリッジ、など、ブリッジの持つ様々な側面をキャッチフレーズに「コントラクトブリッジ」が徐々に知られ始めてきた本年度は、社会的認知度と信用度をさらに向上させるため、コミュニケーションツールとして「社会に貢献するブリッジ」の視点から全国的な広報活動を展開していく。昨年までの「ブリッジ」の名称をまず覚えてもらうという第一段階から、訴求ポイント／対象／タイミングを絞った広告展開と頻繁なプレスリリース送付、情報提供などきめ細やかな広報活動をバランスよく行う段階に移行し、普及活動を強力に後押しする広報活動を

展開する。

地方への普及活動

「地方から全国へ」をコンセプトに、地元会員・会友諸氏と密な情報交換をおこないつつ、地域特性を尊重したブリッジ普及（活性化）活動・支援を全国レベルで展開していく。特に2006年度に開設された九州支部、札幌・福岡の常設会場を拠点にしての近隣地域コミュニティー、企業、団体、教育現場へのブリッジ紹介活動は、手法、過程、結果、それぞれが他地方・地域における普及活動の生かせるテスト版になるとの認識を持ち、十分な検証を行いながら実施することとする。一方、全国的に①ブリッジの露出、②地域社会での認知→カルチャースクールなどでの講習会開催 ③しばらくブリッジから遠ざかっていたスリーピングプレイヤーの発掘、などの方法でブリッジ人口を増やすため、地元メディア、カルチャースクールとの交渉支援、指導員育成・派遣支援を行うなど、支援体制を整備・強化し、地方ブリッジ活性化のため、万全の協力体制で臨む。指導員のいないブリッジ過疎地域において関心を持ってくれる人をどのようにプレイヤーとして育てていくかという課題に、昨年に引き続き取り組んでいく。

ユースへの普及活動

ユース・ジュニア層の裾野を広げるため、囲碁やチェスのジュニア・ユース会員とのマインドスポーツ交流、ジュニアクラブ、夏休みキャンプ、ミニブリッジ大会、橋乃介ミニ道場など、魅力ある企画を規模を拡大しながら実施していく。定着しつつあるジュニア層を、ミニブリッジからコントラクトブリッジにいかにか順調に移行させるかを本年度の課題とする。中学（慶應義塾普通部）、大学（東京大学）に続き、本年は小学校（慶應義塾幼稚舎）においてもブリッジが授業の一環となるなどいよいよブリッジが教育現場で採用される時代となってきたのに伴い、ジュニア・ユースに適した講師／アシスタントなど人材確保・養成が急務となっている。

3) 競技会事業部

競技会運営ソフト(JTOS)のバージョンアップ

2006年秋にリリースしたバージョン2.4の保守を進め、さらに機能を向上させたバージョンを秋に配布する。JTOSを使用した競技会の報告ファイルから参加者の動向をつかみ、競技会の運営に役立てる。

ブリッジセンター・クラブ

前年度に引き続きブリッジセンター・クラブとの関係を密にし、センター・クラブのニーズも考慮しながらよりよい競技会運営を目指す。

ディレクター育成

5ヶ年計画の一環として前年度に引き続きディレクター育成のための講習会、実地研修などを実施する。

図書管理システム

データベースへの入力を完了させ、2006年11月から中止している図書の貸し出しを5月中旬から再開させる。

インターネットを利用したブリッジ

BBO利用したブリッジ競技会を開催する。また、BBOを始めとするインターネットを利用したブリッジの拡大に協力する。

4) 国際交流事業部及びその他の事業

本年度は、インドネシアのバンドンで開催される第45回PABF選手権及び上海で開催される世界ゾーンチーム選手権への代表派遣、世界同時大会とPABF同時大会への参加、NECブリッジフェスティバルの開催等を通して例年通り国際親善と交流を図る。

さらに、知的スポーツの国際大会（World Mind Sports Games）の開催をにらみ、また国際的には既にスポーツとして認知されているブリッジを国内でも同様の立場に高めるため、日本棋院（国際囲碁連盟）、日本ペア囲碁協会、及び日本チェス協会と提携、協力して囲碁、チェスの大会でのブリッジの紹介や競技会の共催等の活動を行う。

20年後、30年後も老若を問わずブリッジを楽しめる環境作りのため、会員・会友の皆様のご支援とご提言をお願いしたい。

普及事業部

普及部会【8,507千円】

1. 各種イベントへの参加、体験教室・講習会の開催と援助、人材の育成
 - (1) 第22回国民文化祭とくしま2007(488千円)
 - (2) NECブリッジフェスティバル体験教室(306千円)
 - (3) 「ブリッジを愉しむ会」(724千円)
 - (4) 普及協力員養成講習会(248千円)
 - (5) 体験教室・講習会への助成(3,690千円)
 - (6) 学校担当ブリッジ講師養成講座の開催(42千円)
 - (7) ブリッジ講習会講師・アシスタント料助成(360千円)
 - (8) 海外クラブへの支援(150千円)
2. 地方クラブの調査・支援と地方会員の獲得(1,764千円)
3. 新入会員の獲得(485千円)
4. リタイア層へのブリッジ普及(200千円)
5. インターネットを利用したブリッジ普及(50千円)

ユース部会【9,163千円】

1. 青少年対象の団体(機関)との提携(68千円)
2. 現役ユースへの支援
 - (1) 大学クラブ新入部員勧誘活動助成(260千円)
 - (2) 学生向けの合宿の学生リーグとの共催・支援活動(930千円)
3. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣
 - (1) 第45回PABFバンドン大会へのユースチーム/スクールチーム派遣(2,377千円)
 - (2) ユース強化プログラム(1,812千円)
4. ユース/ジュニア会員の国際試合への参加助成(200千円)
5. 学校教育現場におけるユース層普及活動
 - (1) 慶應義塾普通部「ブリッジ授業」(1,070千円)
 - (2) 東京大学全学体験ゼミナール「考える力を育てる/コントラクトブリッジ」(908千円)
 - (3) 他校への拡大活動(70千円)
 - (4) 慶應義塾幼稚舎ミニブリッジ授業(162千円)
6. ジュニア層への普及活動
 - (1) ジュニアブリッジサロンの開催(495千円)
 - (2) ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」の開催(169千円)
 - (3) 橋乃介ミニ道場の開催(218千円)
 - (4) 夏休み 橋乃介親子キャンプ2007(228千円)
 - (5) ジュニアくらぶ/小学生用テキスト作成(255千円)

広報部会【35,309千円】

1. ブリッジ普及広報宣伝活動(2,872千円)
2. マインドスポーツ広報・宣伝活動報宣伝活動(1,198千円)
3. 「脳科学的見地からみたブリッジの効用」研究(継続事業)(440千円)
4. ブリッジに関する出版物の刊行(26,064千円)

- 5. 広報ツールの製作・発行 (1,635千円)
- 6. ウェブサイトの運営 (3,100千円)

その他普及事業部の目的を達成するための事業 【24,903千円】

- (1) 各種講習会への会場の提供 (1,037千円)
- (2) その他目的達成に必要な経費 (23,866千円)

競技会事業部

1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認 【収入156,256千円】

- (1) 競技会的主催 (収入53,748千円)
 - 1) ナショナル競技会 [収入31,900千円]
 - 2) リジョナル競技会 [収入18,128千円]
 - 3) 日本リーグ [収入3,360千円]
 - 4) 社会人リーグ [収入360千円]
- (2) 競技会の公認 (収入108,558千円)
 - 1) ナショナル競技会 [収入750千円]
 - 2) リジョナル競技会 [収入8,176千円]
 - 3) セクショナル競技会 [収入60,750千円]
 - 4) ローカル競技会 [収入1,920千円]
 - 5) IMPリーグ [収入32,452千円]
 - 6) クラブ選手権 [収入4,510千円]
- (3) 競技会的主催と公認事業経費 (33,390千円)

2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催 (7,223千円)

- (1) JCB Lハンドブックの作成 [80千円]
- (2) ディレクター講習会 [636千円]
- (3) 公認クラブ支援 [50千円]
- (4) 参加者に対するマナー啓蒙活動 [172千円]
- (5) 競技会運営システムの保守 [2,714千円]
- (6) ブリッジライブラリー運営事業 [1,731千円]
- (7) ネットブリッジ推進 [221千円]
- (8) ウィメンズ強化 [1,300千円]
- (9) 競技委員会 [256千円]
- (10) カテゴリー検討 [20千円]
- (11) ルール委員会 [20千円]

3. その他競技会事業部の目的を達成するための事業 【45,686千円】

国際交流事業部

1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

- (1) 第45回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)バンドン大会への代表派遣及び運営協力 [5,359千円]
- (2) 世界ゾーンチーム選手権への代表派遣 [7,003千円]
- (3) 第13回世界チームオリンピック日本代表選抜試合 [823千円]
- (4) 日中マインドスポーツ大会へ代表チーム派遣 [1,576千円]
- (5) 招待試合へ代表チーム派遣 [910千円]

2. 第13回NECブリッジフェスティバルの開催 (26,673千円)

3. その他国際交流事業の目的を達成するための事業 (2,412千円)

- (1) 世界同時大会への参加
- (2) PABF同時大会への参加

- (3) 頭脳スポーツ国際大会と日本オリンピック委員会加盟を目指して他団体との提携
- (4) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集
- (5) その他目的達成に必要な経費[2,412千円]

九州支部

- 1. 支部法人・個人賛助会員加入の促進
- 2. 広報活動の展開
- 3. 講習会の実施
- 4. ブリッジクラブ及びグループの育成強化
- 5. 学校・社会教育現場等への普及活動
- 6. コントラクトブリッジ競技会の開催及び充実
- 7. PABF の福岡開催誘致活動（誘致委員会の設立及び行政への働きかけ）

九州支部収入： 3,000千円

福岡ブリッジプラザ収入： 3,611千円

収入合計： 6,611千円

九州支部支出： 4,436千円

福岡ブリッジプラザ支出： 12,671千円

九州普及事業支出： 5,208千円

合計： 22,315千円

その他の事業

- 1. その他連盟の目的を達成するための事業【29,891千円】
 - (1) 事務局（一般管理費）の維持（29,891千円）
 - (2) 5ヶ年計画の実施
 - (3) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）
 - (4) 基金の運用
 - 1) チャリティ基金（3,000千円）